

平成26年度 木の実幼稚園 自己評価結果公表シート

学校法人 今川学園理事長

木の実幼稚園 園長 今川公平

○本園の教育目標

1, 生活指導上の基本目標

- ・ あいさつが出来る ・ 感謝の気持ちが持てる ・ けじめがつけられる ・ 自分のことは自分で出来る
- ・ 友達のことを思いやる事が出来る

2, 表現活動を通して、豊かな「感性」と「心」を育てる。

～造形、音楽、言葉による表現活動を通して、感じたことを素直に表現し、喜ぶ心を育てる。

3, 自分で考え、行動できる子どもを育てる。

～いろいろな事柄、事象に興味を持ち、「何故」「どうして」「どうなるだろう」と考えられる力を育てる。

4, 友達と積極的に遊び、いろいろな遊びの工夫できる子に育てる。

5, いろいろな遊びを通して、健康な心身を育てる。

A, 本年度達成することが必要と思われる評価項目

項目	内容
1	年長児向け自主教材の開発
2	園内教員研修のあり方の見直しと新しい方法の開発
3	新任教員研修の徹底
4	園舎・設備の総点検、非常食備蓄倉庫の設置
5	「子ども・子育て新制度」の研究と対応

B, 評価項目の設定理由

項目	内容
1	本園は既成のワークブックやドリルを使用せず、本園で開発した遊びや活動を教材としてきたが、唯一残っていた年長児向け文字学習教材「もじノート」も種々改善すべき所が有り、本園の方針に沿ったオリジナルの文字学習教材を開発する必要がある。
2	外部講師を招いての園内研修の繰り返しでは、具体的にどう保育が改善されたのか見えてこない部分がある。またその改善の取り組みを、新任を含めた教員全体で共有する必要がある、この点の改善が望まれる。
3	26年度は新任教員5名という体勢でのスタートとなったが、保育中の学年主任中心の指導では不十分な所もあり、園全体での新しい取り組みが必要である。

項目	内容
4	園舎・園庭の大規模改修から2年が経ち、ホールや倉庫も含めた全施設の総点検が必要な時期である。また同時に災害多発時代という状況の中で、非常食や水などの備蓄が現状では不十分で有り、新しい備蓄倉庫が急務である。
5	27年度から施行される「子ども・子育て支援新制度」の子ども側の視点に立った研究と、各市町村に対する対応策を継続して研究する必要がある。

C、評価項目ごとの具体的目標と取り組み方

項目	内容
1	従来の文字の書き写しの単純な反復学習にならない様に、鉛筆を使っての線遊びを初期段階に取り入れ、またオリジナルの「文字カード」を作り、文字の組み合わせ遊びを経験した上で、効果的な反復練習につなげる取り組みを行う。反復練習はオリジナルの柘組を使った文字の形の認識がしやすい練習シートを作成する予定である。一年間通して学んだものを最後にファイル化してまとめる計画である。
2	「日々の保育の内容と進め方の改善」を各担任がどう取り組んだのかを、夏期休み中にまとめ、園内研究会で発表する。また、前年度のプロジェクト型保育がどのように行われたかを中堅以上の教員がそれぞれ実践発表をする。8月中の園内研修会で複数回に分けて発表し、議論を深める。(既に実施したが、全教員の反応は極めて高く、大きな学びになったという意見がほとんどであった。)
3	通年にわたって、一人一人の新任教員に主任と園長が複数回にわたり、保育に立ち会い、保育の振り返りと指導を密に行う。また保育のビデオ記録により、自分自身での振り返りに有効に活用する。さらに、新任教員全員で課題の明確化と取り組みについて、主任、園長と話し合う機会を多く設ける。
4	8月～9月に渡って全施設点検の上、補修とクリーニングを行う。また西棟屋上入り口手前(幼稚園内で最も高い位置に有り、風水害に最も安全と思われる)に非常食の備蓄倉庫を新たに設置する。2学期に保護者にもこの体勢を周知する。
5	27年度は、現状の私学助成を受ける幼稚園としての体制は堅持するが、28年度以降は国の消費税の10%アップとの関係の中で、状況はまだまだ不透明である為、内閣府、文部科学省、大阪府私学大学課、松原市からの最新情報を常に収集し、行政とのパイプを堅持しながら、中長期的な取り組みを明確にしていく。

◎以上の本年度の取り組みについての最終評価は25年度末 26年3月に実施する。